

吉瀬征輔先生 研究業績目録

著 書

- 『十九世紀イギリスの議会改革－労働者階級の体制内統合－』法律文化社、1993年。
『英国労働党－社会民主主義を越えて－』窓社、1997年。
『現代日本政治史年表・解説』(共著) 法律文化社、1989年。

論 文

- 「オストロゴルスキー政党論の論理」『政治学研究』(九州大学法学部政治研究科) 1966
「新組合主義運動の政治的性格－労働党成立史論－」『法政研究』
(九州大学法学部) 1968
「ジョセフ・チェンバレンの政治思想」(博士中間論文) 1969
「帝国主義移行期イギリスにおける民衆統合イデオロギー ジンメル『帝国主義
と社会改良』への論評」『九大法学』(九州大学大学院法学研究科) 1971
「第二次議会改革におけるデモクラシー 労働者階級の体制内統合をめぐる」
上、下『愛知県立大学外国語学部紀要』 1974、1976
「政治変動」横越英一ほか編『政治学副読本』(文真堂) 1976
「1960・70年代イギリスにおける労働組合論争」
『愛知県立大学外国語学部紀要』 1977
「1867年議会改革とデモクラシー－解体期における名望家社会における体制内統合
の論理－」『愛知県立大学外国語学部紀要』 1981
「イギリス統治階級の危機意識－1832～48年－」『同上』 1982
「1850年代における議会改革論争」『同上』 1984
「いわゆる“Mid-Victorian Stability”の存立構造と労働者階級の体制内統合
－最近の研究成果の批判的摂取のために－」『同上』 1986
「ビクトリア中期イギリスにおける<労働組合>論争－<市民社会>秩序との
調和を求めて－」『同上』 1993
「1970・80年代の西欧社会民主主義－<ポスト・ケインズ主義>的状况への対応」
『同上』 1998
「<ポスト社会主義>時代における社会民主主義－トニー・ブレアの<第三の道>」
『同上』 1999
「<民主主義的社会主義>論の形成－戦後労働党のイデオロギーと体質①」
『同上』 2000
「アトリー政権による<戦後改革>と<社会主義>」『大学院研究科紀要』 2000
「福祉国家下での労組の地位変化と“レイバーリズム”」
『愛知県立大学外国語学部紀要』 2001
「1950年代の修正主義論争」『同上』 2002
「ウィルソンの“科学革命と社会主義”論と1964年総選挙－戦後労働党のイデオ
ロギーと体質⑤－」『同上』 2003
「イギリス労働党の“第三の道”における経済統治論－“partnership economy”－」
『同上』 2004

訳 書

- マイケル・モラン『イギリスの政治と社会』(共訳) 晃洋書房 1989

書評・評論など

- 「帝国主義的アジア外交と日米関係」『社会問題月報』社会問題研究所Vol. 6, No. 11
1967
「現実主義的知識人の台頭」『同上』 VI. 6、No. 12、1967
「沖縄・安保問題とわが国の対外政策」『同上』 Vol. 8, No. 5、1969

- 「70年問題とは何か」 『同上』 Vol. 8, No. 8、1969
「日米共同声明と沖縄問題決着の意味」 『同上』 Vol. 9, No. 1、1970
「イギリス政治における近代化過程の政治展開様式の類型化の試み—S.H. ビア
『集産主義時代のイギリス—』、『現代世界研究』(現代世界研究会) 1973
「十九世紀初頭イギリスにおける<革命回避>の政治理論—ハンバーガー『マコー
レーとウィッグ的伝統—』、『研究報告集』(県大外国語学部1948年研究会) 1976
「日本型福祉国家の破綻と国民春闘路線」、『社会問題研究』(社会問題研究会) 1978
「イギリスの1979年総選挙」 『同上』 1980
「理念なき改革論争—総選挙を振り返る—」 『中日新聞』10/24 1996
「ポスト・サッチャー主義時代の焦点—英国労働党の圧勝を受けて—」
『同上』5/7 1997
『トニー・ブレアの英国労働党に学ぶ』(パンフレット) 大分県平和運動センター 1997
「西欧社会民主主義の再生—イギリス労働党に学ぶ—」、『調査・報告書ヨーロッパ
社会民主主義の新たな展開』(自治労) 1999
「イギリス労働党の再生」、『政策資料』NO.42 (大阪地方自治研究センター) 1999
「イギリス政治における<選挙公約>の重み」、『生活経済政策』
(生活経済政策研究所) 2000

所属学会

日本政治学会、西洋史学会、中部政治学会など